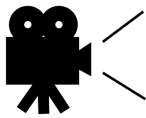


目の不自由な方々と共に映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりをしています。



ごあいさつ

シティ・ライツ代表 平塚千穂子

春爛漫！ぽっかぽかのお日さまと花の香りが心地よい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、春がきた！ということは・・・シティ・ライツ映画祭が、すぐそこに近づいている！ということです。シティ・ライツが、「バリアフリー映画館づくり」という夢を掲げ、視覚障害者と一緒に、昨年から開催している手作りのバリアフリー映画祭。その第2回目となるシティ・ライツ映画祭2009が、来る5月5日、両国の江戸東京博物館で開催されます。

上映作品は、昨年の秋、日本で公開するや、銀座の単館劇場で大ヒットロングランを記録したスイス映画「マルタのやさしい刺繍」と、3分に1度は笑える！のキャッチコピーで巷を賑わせた三谷幸喜監督最新作「ザ・マジックアワー」の二本立てです。どちらも『夢を信じる心』がキーワードになっている作品で、何度みても笑えて、泣けちゃう感動作です。せっかく、こんな素敵な映画を上映するので、映画を楽しんでいただくのはもちろんなのですが、ただ楽しんで帰るだけでなく、映画を観た後、自分の「夢」にも思いを馳せて、「私も夢を信じて生きて行こう！」と、希望に満ちた気持ちで会場を後にしてくれたら・・・、そして、会場を出て見上げた空がマジックアワーに染まっていたら、最高に幸せだなあ〜等と、妄想しております。（笑）

2作品の間には、トークイベントも企画しています。テーマは「バリアフリー映画から広がるコミュニティの可能性」。対談の中から、シティ・ライツになぜ人が集まってくるのか、みんな、何が楽しくてこのボランティア活動をしているのかが浮き彫りになり、今後のUD社会をイメージするヒントを導きだせれば、と思っています。現時点で登壇者はまだ決まっていますが、今回はよくありがちな、バリアフリーや福祉の専門家ではなく、上映空間づくりに携わっている方。ことに、「コミュニティシネマ」（＝地域の多様なコミュニティが、その関心や興味に応じて映画や映像に接することができるよう、多様な上映機会を提供する組織。）などの方からお話をお伺いしたいと思っています。

今年の映画祭のアピールポイントは、これだけではありません。

もう一つは、鑑賞スタイルへの挑戦です。今年は視覚障害の有無に関わらず、来場者全員にラジオを配って、音声ガイドを聴いてもらうぞ大作戦！を考えています。音声ガイドは、目の不自由な方々にも映画を楽しんでもらうため、目に見える情報をどう説明したら伝わるかを、練りに練り込んで作られるものですが、台詞の合間という限られた時間の中で、映画の全貌をすべて言い尽くせない限り、入れられる情報はどうしても絞り込まれてしまいます。では、その絞り込みの最優先はどこにおかれているか？それは、大雑把に言えば「どうしたらこの映画の面白さが伝わるか？」に集約されるだろうと思います。それは目のみえる方にも、決して邪魔なものではありません。むしろ、映画の面白さをより細かく発見できるおもしろいツールなのだという事とも、多くの方々に知っていただきたいと思っています。

また、他にも、音訳パンフレットの配布、音声による上映作品の事前解説、解説員が刺繍の柄を丁寧に説明する・さわれる刺繍コーナーなど、イベント自体に様々なバリアフリー環境を施していきたいと思っています。

また、特集のコーナーでも、音声ガイドの制作に関わったスタッフや実行委員からのメッセージがあるかと思いますが、この映画祭は、まさにシティ・ライツのボランティアによる汗と涙の結晶であり、そのボランティアの働く姿そのものも、是非みて帰っていただきたいと思っています。

まず、資金調達から、会場選び、作品選び、チラシ・ポスターのデザインやイベントの企画まで、あらゆることを考えて運営してくれていたのが、昨年5月から実行委員長のノンちゃんを筆頭に結成した、ボランティア有志12名による映画祭実行委員会です。

皆が、シティ・ライツの活動や映画の感動を伝えようと、自分にできることを一生懸命に考えて、知恵を出し合い、あちこちに動き回ってくれました。おかげで今年は、この不況下にも関わらず、たくさんの企業に私たちの活動を知っていただき、ご協賛をいただくことができ、あきらめていた35ミリフィルムの映写も行えるようになるなど、一歩前身することができました。

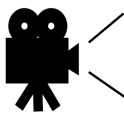
また、映画の音声ガイドづくりは、毎週1回行われる音声ガイド勉強会の課題作として取り上げ、参加者を募集しましたが、それぞれの作品に15名ずつ、30名の方々が参加して下さり、少しずつ分担をしながら、音声ガイドナレーションの台本づくりを行いました。言い過ぎず、的確で、かつ映画のおもしろさを存分に伝える音声ガイドを、一つ、一つの言葉・表現に頭を悩ませながらも、一緒に考え、作りこんでいく作業は、途方もなく長い時間を要します。でも、映画にぴったりとあう、音声ガイドができあがった時には格別の喜びです。

また、スイス映画の「マルタのやさしい刺繍」では、フィルムが字幕スーパー版しかなく、外国語台詞の上映となるため、イヤフォンでは、音声ガイドのみならず、日本語字幕の朗読も同時に聴けるようにと、字幕朗読ボランティアの募集をしました。こちらにも、20名の朗読ボランティアと3名の収録スタッフが、障碍の垣根を超えて一緒に参加してくれていて、これからはじまるスタジオ収録が楽しみなところです。

この会報が届く頃には、映画祭当日の誘導や受付、会場整理のお手伝いをして下さる当日ボランティアスタッフを募集している最中だと思いますが、とにかく、このようにたくさんの人々が、シティ・ライツ映画祭の成功という「目標」と、その先にある「バリアフリー映画館づくり」の「夢」に向かって、力をあわせて下さるのは、本当に有り難く嬉しいことだと思います。

映画祭当日、ご来場いただいた方々に、映画の感動と同じくらい、ボランティアスタッフから発する「一緒に作り上げる喜びのオーラ」(苦しみのオーラでないことを祈る)も感じていただけたら幸いです。

～同行鑑賞作品～



活動報告

このコーナーでは、2009年1月～3月までに開催された音声ガイド付き上映会や、同行鑑賞会をレポートします。参加された皆さん、企画者そしてボランティアの方々お疲れ様でした。

- ・1月4日/ラースとその彼女/川崎チネチッタ
- ・1月24日/アラビアのロレンス/テアトルタイムズスクエア
- ・1月25日/ブローケン・イングリッシュ/恵比寿ガーデンシネマ
- ・2月8日/20世紀少年 第二章/ユナイテッドシネマとしまえん
- ・2月14日/マンマ・ミーア/川崎チネチッタ ・2月21日/ヘブンス ドア/川崎チネチッタ
- ・2月22日/男はつらいよ 第11作 寅次郎忘れな草/川崎チネチッタ
- ・2月28日/誰も守ってくれない/川崎チネチッタ
- ・3月14日/チェンジリング/TOHOシネマズ 日劇
- ・3月15日/男はつらいよ 第15作 寅次郎相合い傘/川崎チネチッタ
- ・3月28日/おくりびと/川崎チネチッタ



調布映画祭 レポート

ミリキタニの猫、字幕朗読収録のウラガワ 紺谷 裕子

- ・2月のある日、調布市文化会館たづくりのスタジオにて、調布映画祭の音声ガイドつき上映作品の一つ、「ミリキタニの猫」の字幕朗読が行われた。

・収録前日 21時ごろ

変わり果てた声のMさんから電話。「声でないから変わって～」という悲痛の叫びに「わかりました」と答えてしまってから、リンダのセリフの多さにへこむ。もともと振られていた役のあたりしか予習してない…と思いながら映画を見直す。

・収録当日 10時

収録メンバがたづくりのロビーに集合。出演者は11名、各人のスケジュールの合間を縫って参加。午前のみ、昼間のみ、仕事が終わってから駆けつけてくれる人などなど、入れ替わり立ち替わりに。朝集合したのは7名だった。

・10時半ごろ

原稿の修正などなどの連絡事項の後、収録開始。基本的には字幕のとおりを読む、どんなに読みにくくても(当たり前?)。ただし、どうしてもわかりにくいところは少しだけ補足する。映画の編集の都合でぶちっと切られているセリフなど、この「…」にもし言葉を入れるなら何かな?なんて言いながら言葉を足していく。覚えつつもいざ読むと字幕に出ないので忘れてしまいNGなんてことも! 視覚障害者、晴眼者、経験者、初心者といろんな人が集まってワイワイ楽しい現場だ!!

・12時

お昼休み。たづくりの12階にある展望レストランで休憩。良く晴れていて、富士山がきれいに見えていた。心の中でうきうきしていたのに「うちからも見えるし～」と言われてへこむ。うらやましい。

・13時過ぎ

午後の収録開始。午前中の収録を終えた3名と入れ違いに午後からの2名が到着。

字幕朗読では原音と同じトーンを求められるため、「原音にあわせてね」、「原音聞いてみようか」という声が飛ぶ。うまく出来なくてやさしく言われるのががんばらねば!と思う。

・17時過ぎ

16時過ぎに収録を終えて、K太郎ショップのある「天神通り」に行くわ～と帰っていかれたGさん再び登場。手には鯛焼きが…。ご馳走様でした。おやつを食べて一休みした頃、仕事を終えて集まった収録メンバが到着。ニュース原稿を読むように、キャスター役をさらっとつとめて、19時には終了。

調布映画祭当日

みんなで、完成版を鑑賞!! ガイドと電話やTVからの音を加工する編集が加わって、臨場感ある仕上がり。ありがとうございます! 平塚リーダー他、皆様。

『ミリキタニの猫』 2007年／アメリカ映画／74分

監督:リンダ・ハッテンドーフ 出演:ジミー・ツトム・ミリキタニ、ジャニス・ミリキタニ、ロジャー・シモムラ ほか。

(あらすじ) ニューヨークの路上で絵を描き続ける80歳の日系人画家、ジミー・ミリキタニの誇り高き反骨の人生を見つめた感動のドキュメンタリー。カリフォルニアに生まれたジミーは、その後母の故郷広島で育つが、強まる軍国主義を逃れて18歳でアメリカに帰国する。しかし第二次大戦中に日系人強制収容所に送られた彼は、アメリカ国家に抵抗して自ら市民権を放棄する。以来、様々な社会保障も受けられず、やがては不運も重なりニューヨークで路上生活を送ることになるが、自由と不屈の精神を失うことはなかった…。本作は、彼の絵を買ったのが縁で、ときおり彼を撮影していたリンダ・ハッテンドーフ監督が、911テロの直後、彼を自宅のアパートに招き入れ、2人が奇妙な共同生活を送る中で、彼の数奇な人生が次第に明らかとなっていくさまがカメラに収められていく。



特集

第2回CityLights映画祭
夢、信じる心〜チャレンジすれば何かが変わる〜



この会報が皆さんのお手元に届くころには宣伝ちらしもあちらこちらでご覧いただけていることと思いますが、今年もシティ・ライツの映画祭をどど〜んと開催します！ 昨年の第1回の会場の最大の利点だった駅からの近さをそのままに、規模を約1.5倍に広げ、本格的な35ミリフィルムでの上映に挑戦します。また、映画上映の間の時間では、映画館から発信される新しいコミュニケーションの可能性。皆が元気になる場所、パワーを受け取ることのできる場所としての映画館づくりに向けて、ゲストの方を交えてお話しする予定です。そのためにはお金も必要ということで、多くの方々のご協力によりスポンサー集めにも力を入れました。丁度運悪く、空前の大不況となってしまう苦勞もしましたが、その分、お気持ちの暖かさを沢山たくさん感じることができました。あとは、応援してくださる全ての皆さんのためにも、昨年よりもっと素敵な私たちらしい心のこもったお祭りとできるように準備するのみ、と実行委員一同張り切っています。会員の皆様、どうか、5月5日(火・祝)は江戸東京博物館大ホールへいらしてくださいませ。お待ちしております。

というわけで、今回は映画祭に向けての特集を組むことにいたしました。上映作品である「マルタのやさしい刺繍」「ザ・マジックアワー」に寄せる熱い思いのこもったお勧めコメントを読んでもいただければ、映画祭に出かけてみたくなること請け合いです。では、この辺で書き手の方にパトンタッチいたします。

柿崎洋子(かきざき・ようこ)東京都足立区在住 32歳／主婦

母に確認したところ、私は3歳から映画館に連れて行ってもらい、洋画を見ていたと言います。007やスターウォーズ、スーパーマンなどなど、記憶を辿れば確かに古い！ まだまだ字幕が読めなかったのに、映画を見るのが大好きだったのは、母が耳元で解説してくれていたからです。これが私の音声ガイド初体験だったのかもしれませんが。なんだかベテランのようですが、半年前に音声ガイド勉強会に参加したばかりの新米です。「歓喜の歌」「時をかける少女」では、ナレーションにも挑戦させていただきました。私の映画の世界に新しい扉が開いたようで、活動を心から楽しませていただいています。

「マルタのやさしい刺繍」上映にあたって

夢見る力が生きる勇気を生む

舞台はスイスの山間にある小さな村。主人公は80歳のおばあちゃん・マルタ。夫の死の悲しみの中で、自分でデザインして刺繍をしたランジェリーショップをオープンさせる夢を思い出し、村の友人達に支えられながら新しい生き方を見つける物語。映画館で何気なく見た予告編でしたが、「おばあちゃん、刺繍、ランジェリー」という魅力的な設定に期待が高まりました。作品を見て、「なんて素敵なマルタの生き方！ 変わっていく村人たちの勇気にも拍手！」と、感動で胸がいっぱいになり、心地よい幸福感に包まれました。とにかく誰かにこの作品の素晴ら



しさを伝えたくてたまらなくなる、「マルタのやさしい刺繍」はそんな素敵な作品です。

舞台になる村は、新しいものを嫌い、伝統を重んじる保守的な地域。村人達はお互いに監視し合い、規律を守って生活しています。息がつまりそうな閉鎖的な村で、マルタとマルタを囲む3人の女性達は、それぞれに夫の介護や孤独な生活を受け入れて、悲しみや苦しみを胸に秘めて淡々と生活しています。そんな生活の中で、夫の死を乗り越えるだけでなく、それをきっかけに夢を実現するというパワフルなおばあちゃんとしてマルタが登場します。夫の後を追って死のうとしていたマルタが、いつの間にかキラキラと輝き出す姿にはクスツと笑わずにはいられません。シリアスな問題をコミカルに描いているところもこの作品を魅力的にしている点です。マルタの自由な生き方に反発する人々の固く閉ざされた心が、マルタの夢見る力によって、ゆっくりと解けていく姿がとても美しく描かれています。

ある日の音声ガイド勉強会で、この作品の素晴らしさを代表の平塚さんに伝えました。タイミング良く作品選考に間に合い、映画祭で上映が決まったと聞いて、推薦者の一人として喜んでいました。どうぞみなさんもこの機会に、マルタと村人達が起こしたささやかな奇跡をご覧ください。春風のような心地良さが、皆さんの心を包んで温めてくれますように。

『マルタのやさしい刺繍』(2006年)

監督:ベティナ・オベルリ 出演:シュテファニー・グラザー、ハイジ・マリア・グレスナー、他

スイスの谷間の小さな村を舞台に、80歳のおばあちゃんたちがランジェリーショップを開くために奮闘する様を描いた人間ドラマ。閉鎖的な村人の冷たい視線を浴びながらも、マルタおばあちゃんと3人の女友だちが老いてもなお生きがいを見つけ出していく。スイス気鋭の女性監督ベティナ・オベルリとスイスを代表する大御所女優たちがコラボレートし、年を重ねることや夢を追うことがそう悪いものではないということを教えてくれる。(シネマトゥデイ)



「音声ガイド初挑戦」

石原 一作

音声ガイドの存在を初めて知ったのは、2008年の秋ごろです。友人に誘われて体験参加したシブヤ大学の特別授業で、「目をつぶって映画を観る感覚」がどんなものかを教わりました。ただ残念ながら途中参加のためガイド制作は終盤に差し掛かっており、出来あがったものを観ることしかできませんでした。その折、シティ・ライツ映画祭へのお誘いを頂き、ガイド制作を頭から体験してみたい！と是非にと参加した次第です。

ガイド制作に携わって感じたのは、目で見て面白いと思ったものを言葉にして伝えるのがなんと難しいものか！ということです。作品のマジックアワーは初見で涙がでるほど笑い転げたコメディ・ドラマですが、佐藤浩市扮する売れない役者の演技や、マフィアのボス役である西田敏行の仕草をどう表現するか、といった「面白いことを面白い」と伝えることに苦心しました。

意味を勝手に解釈するのは余計なお世話だし、かといってただ客観的に伝えたのでは淡泊になってしまう。どうすれば映像がない状態でもうまく伝わるか。何度も映画を再生してはガイドを修正して、を繰り返し、徐々に完成形が見えてきたときの喜びに、ガイド制作の醍醐味を感じました。ただそれも週末の検討会でもっとよい表現があることに気づいて、苦笑いすることになるのですが。

毎週土曜の検討会は、和気あいあいとした雰囲気で行われました。各自家でさんざん予習しているはずなのにシーンで吹きだしてしまったり、石像がカモメなのかアヒルなのかを真面目に議論したりと、毎日が新鮮な感覚でした。自分が考えに考え抜いたつもりで作成してきたガイドが前提から間違っていることに気づいたり、監修のかたのこだわりや指摘になるほどと感心したりと、諸々含め非常に勉強になったと思います。男女半々ぐらい、年齢も上はロマンスグレーの似合うおじ様から下は就職活動中の学生さんまで、色々な方が参加しており、普段の仕事では味わえない良い刺激を頂きました。

本稿段階ではガイドはまだ鋭意制作中でして、最終形はまだ見えていないのですが、よいものにしたいと制作者全員意気込んでおります。表題のマジックアワーとは、日没後の「太陽は沈み切っていないが、まだ辺りが残光に照らされているほんのわずかな、し

かし最も美しい時間帯」転じて「誰にでもある『人生で最も輝く瞬間』」を意味するようです。本作を鑑賞された方々が、笑って、そして
少しだけ自分自身のマジックアワーを思い浮かべる、そんなガイドに仕上がっていることを切に祈ります。

『ザ・マジックアワー』(2008年)

監督:三谷幸喜 出演:佐藤浩市、妻夫木聡、深津絵里、他

解説: 暗黒界のボスの愛人に手を出した男が、命を助けてもらう代償に伝説の殺し屋を探し出すコメディ・ドラマ。『THE 有頂天ホテル』の三谷幸喜が脚本と監督を務め、映画監督のふりをして無名の俳優を幻の殺し屋に仕立て上げようとする、しがたないギャングの苦肉の策を描く。撮影と思い込み殺し屋に成り切る俳優に佐藤浩市、その俳優をだます小ずるい若者に妻夫木聡。うそと思い込みが巻き起こす感動と爆笑が交互に訪れる、巧みな脚本が光る。(シネマトゥデイ)

勝手におすすめシネマ Vol.8 『ファンシイダンス』

今年のアカデミー賞は盛り上がりましたね！

外国語映画賞で『おくりびと』(滝田洋二郎監督作品)、短編アニメーション賞で『つみきのいえ』(加藤久仁生監督作品)がそれぞれ受賞し、映画離れしていた日本国民に、映画の魅力を再確認していただく良い機会となったのではないのでしょうか。

ということで、今回は『おくりびと』の企画・主演をつとめた本木雅弘さん絡みでご紹介いたします。

『ファンシイダンス』(1989年) 監督:周防正行 出演:本木雅弘、鈴木保奈美、他

ロックバンドでリードボーカルをつとめ青春を謳歌している大学4年生の陽平(本木雅弘)には、寺の跡取りという宿命があった。

恋人の真朱(鈴木保奈美)に頭を丸めてもらい、弟と共にド田舎の禅寺へ修行に旅立つ陽平。彼らは、つらく厳しい修行の中で、知られざるお寺の現実(?)を目の当たりにする！

禅寺を舞台に修行と煩惱の狭間に揺れる男たちをコミカルに描いた『ファンシイダンス』。実は、この作品が本木雅弘さんの初主演作品なんです。

シブがき隊としてアイドル路線をひた走ってきた本木さんにとって、この作品との出会い、周防監督との出会いが、大きな転機になったに違いありません。

『おくりびと』のアカデミー賞受賞の原点には『ファンシイダンス』があったということ、皆さん忘れないで下さいね！

余談ではありますが、『ファンシイダンス』の生みの親である周防監督は、『変態家族 兄貴の嫁さん』(1984年)というピンク映画で監督デビューしており、この作品は小津安二郎監督の名作『晩春』(1949年)のパロディとして制作されています。敬愛する小津監督のまねをしたかったという単純な欲求だったそうですが、「これじゃあ映画の神様に怒られるんじゃないだろうか……」と思った周防監督は、それ以来、映画制作に入る際に必ず小津監督のお墓参りに行かれているそうです。

(大田悠子)

ー思い出は、名画とともにいつまでもー。

このコーナーでは“思い出の映画”にまつわる投稿エッセイをご紹介します。皆さんの汗と涙の人生をセピア色に彩る素敵な名画の数々をエピソードとともに
お寄せ下さい！！



思い出の映画

お料理について考える時、また何かに悩んだ時や人との関係について思いを巡らせる際によく思い出す映画です。

ヒロインのケイトは才能に恵まれ、完璧な仕事で素晴らしい料理を作り出す有名シェフ。

何事にも自分のルールを守って完璧さを追求する彼女の生活に二人の人物が現れることで彼女が今まで築き上げてきた厨房の世界や完璧さやルールを求めてきた生活に大きな変化が訪れていきます。

この映画は、毎日の生活で行っているお料理の魅力やパワーを教えてくださいました。想いを込めてお料理をすることや、誰とどんな風にご飯を食べるかどうかの大切さ、そしてクリエイต์することの楽しさといった、様々な幸せの種が日常に溢れていることを思い出させてくれました。時間は掛かったとしても、自分や誰かのために気持ちを込めてお料理を作ったり、想いが詰まっているお料理を食べる時には、嬉しくて幸せな気持ちになりますよね。

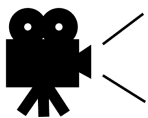
また、世界には本当にいろいろな考え方や価値観を持つ人がいますが、お互いを受け入れることは、時に難しいこともありますよね。自分の常識や価値感だけに固執してしまったことで、相手を理解できなかったり、きちんと向き合えなかったことを思い出すと、自分のルールを見直してみる勇氣や新しい視点を持つ余裕を忘れないようにしたいなと思います。完璧を求めて、逆に自分や相手を辛くしてしまうのではなく、もう少し違う見方はできないか、本当に大切にしたいことは何だろうと少し立ち止まってみることで、そのままの自分も、相手のことも受け入れていけたら、幸せの形がどんどん増えていくのではないのでしょうか。

お料理することや食べることの楽しさを思い出させてくれることはもちろん、人との関わりについて考えるとき、自分自身を客観的に見つめたいときにも、優しい勇氣をくれる映画です。ヒロインが自分や人と向き合うことへの努力や挫折、そしてどのような関係性やオリジナルなレシピを作り出していくのか、是非ご覧になってください。

『幸せのレシピ』(2007年)

監督:スコット・ヒックス 出演:キャサリン・ゼタ=ジョーンズ、アーロン・エッカート、他

(あらすじ)マンハッタンの高級レストランで料理長を務めるケイト(キャサリン・ゼタ・ジョーンズ)は、ある日、姉を交通事故で失い、残された妹のゾーイ(アビゲイル・ブレスリン)を引き取ることに。一方、仕事場には、ケイトとは正反対の性格の陽気な副料理長ニック(アーロン・エッカート)が新たに雇われる。(シネマトゥデイ)



お知らせ

■新規会員のご紹介

(2009年1月1日～2009年3月31日までにご入会いただいた方々です。)

[正会員]・岡田 禎子(東京都江東区在住)・飯田 明子(千葉県千葉市在住)
・中村 輝彦(東京都台東区在住)・高橋 倫花(東京都杉並区在住)

■第2回CityLights映画祭 ★シティ・ライツ会員限定で座席事前予約を受付ます!★

City Lights 映画祭は、シティ・ライツが総力を結集してお送りする、年に一度のBIGイベント。日頃からご支援いただいている会員の皆様に、一人でも多くご来場いただけるよう、お座席の事前予約制度をご用意いたしました。

ご来場を予定している方は、4月20日(月)までに、yoyaku@citylights01.org まで、下記の内容をお知らせ下さい。

なお、お誘いしたいご友人やご家族の分もまとめて複数でお申し込みいただいても結構です。

(映画祭の詳細は、別紙のチラシをご覧ください。)

1. お名前(ハンドルネームでも可)
2. お申し込み人数(できるだけ全員のお名前をお願いします。)
3. 鑑賞作品 A 13時～「マルタのやさしい刺繍」のみ／B 15時40分～「ザ・マジックアワー」のみ／C 両作品
4. 休憩中のトークセッション(15時～15時30分)はお聞きになりますか? はい・いいえ
5. 誘導を希望の方は ア～エ にお答え下さい。
ア)どちらの駅へいらっしゃるか(JRまたは大江戸線 両国駅) イ)誘導希望者の人数
ウ)誘導希望者のお名前(全員のお名前をお願いします。) エ)当日連絡のとれる携帯番号

■シティ・ライツ 2009年度総会のお知らせ

下記のとおり、2009年度の総会を開催いたします。

正会員の方は、5月25日までに、シティ・ライツ事務局まで、出欠のご連絡をお願いします。

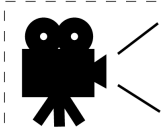
2009年度総会 日時:5月31日(日曜日) 13時～16時 場所:東京都障害者福祉会館／洋室

※JR田町駅から誘導をご希望のかたは、前日までに事務局までご連絡下さい。

★総会の前(10時～12時)、ドキュメンタリー映画「こんばんは」の音声ガイド付き鑑賞会もあります。こちらもお楽しみください。

・総会へご出席の方は、氏名と、誘導の希望の有無をお知らせください。

・欠席の方は、総会の議決を議長に委任することを示す委任状をお送りください。



編集後記

(会報編集課 ノンちゃん)

記事の中でも書きましたが、今年のCityLights映画祭のテーマは「夢、信じる心～チャレンジすれば何かが変わる!」。私の古い友人の一人が以前に「夢は信じ続ければ絶対に適うんだよ。あきらめちゃいけないんだ」と力説していたことをふと思い出しました。日々の仕事に追われていたり、雑用で忙しくしていたり、逆にやりたいことはあるのに様々な事情で思うにまかせないことがあったりすると、

つつい夢などみてはいられないという気持ちになってしまうのが人間ですね。でも、どんなときでも、どんな小さな夢でも持ち続けて行くこと、それに向かってチャレンジすることって素敵なんですよね。

今年の映画祭では、いらしていただいた皆さんにそんな気持ちを持って帰っていただけたらいいなあと思っています。それが今の私の夢かな?

(会報編集課 太田)

前回の秋から冬にかけては、私にとって、本当に季節通り凍えっぱなしの日々でした……(しかも、多忙につき前回の勝手におすめシネマをお休みしてしまいました……すみません!)

徐々に暖かさが感じられるようになり、私の日常にも明るい陽射しが射してほしいものだ、心から願っています。ああ、早く心の底から春を感じたい!!

春よ来い 早く来い♪って感じ?!

(会報編集課 吉川)

吐息がミルク色から透明へと変わり、肌寒さもだいぶ緩和されてきました。会報が届くころには可也暖かくなっていることでしょう。出会いと別れ、グラデュエーション・ブルー、ロマンティックが終わるとき……さまざまな言葉で形容されるハルという季節ですが、自分にとってはまさに花粉症の季節!! 小学生のころから実に花粉症暦20年。もちろん今年もかかりました。

薬も飲まず、予防もせず、対策としてはマスクをするぐらいでしょうか……完全に受け入れてしまっています。ヨーグルトがいいと雑誌に書いてあったので、来年は試してみようと思います。

お忙しい中、今回の会報作成に協力いただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。

皆さまの投稿を、心よりお待ちしております。宛先は、kaihou@citylights01.org。次回の発行は 7月10日。投稿される方は、6月第2土曜日までをお願いします。『会報のテキストデータ送信』にも対応します。ご希望の方は、会報編集担当アドレス<kaihou@citylights01.org>まで、氏名と会報の送信を希望するメールアドレスを記入して、お申し込みください。

2009年4月10日発行

編集: 吉川 俊平、斉藤 恵子、大田 悠子

発行者: バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ

事務局: 〒114-0016 東京都北区上中里 1-35-15 TEL&FAX 03-3917-1995

E-mail mail@citylights01.org URL http://www.citylights01.org

